

2024年度 事業報告書

2024年4月1日～2025年3月31日

法人の名称 NPO法人ここだね

1. 事業総括

不登校児童生徒数が34万人を超過し、今の学校に合わない子どもたちとその保護者にとってフリースクールという多様な学びの場の重要性がより一層高まる中、ここだねは、フリースクール運営事業を中心に、できることを一つひとつ積み重ねてきました。

2024年度は、県の相談事業費の補助を受け、相談支援体制を強化しましたが、逗子市では学校内に支援教室（校内フリースクール）が設置されるなど、学校の受入体制の変化もみられ、例年のように夏休み明け以降の新規相談が急増することはありませんでした。

在籍児童数や参加回数の増加などがみられ、現在の狭い拠点では受入れ人数に限界を感じ、少しでも広い新拠点を探していた中で新たなご縁をいただき、2025年度に拠点を移転する流れができました。

4月に「逗子フリースクール等連絡協議会」を設立し、フリースクールや保護者への補助に関する要望書を市長に提出し、オープンフリースクールを開催するなど、新たな広がりがみられた一年でもありました。

また、1月には認定NPO法人の申請も行ない、2025年4月1日からの認定を受けることができました。今後も更に公益に寄与することができるよう事業運営を継続していきたいと思います。

2. 事業実施内容と成果

（1）特定非営利活動に係る事業

① フリースクール運営事業（「フリースクールここだね」事業）

◇フリースクール運営事業

- ・内 容 学校以外の多様な学びの場での教育を希望する小中学生を対象として「フリースクールここだね」の運営を行ないました。
- ・日 時 （フリースクール）月・火・水・金 9:00～14:00
（放課後学習支援）月・水・金 14:20～17:10
- ・場 所 逗子市の拠点および連携団体の活動場所
- ・従事者人員 スタッフ3人、ボランティア5人
- ・受益対象者 フリースクールを必要としている児童生徒
- ・活動実績 登録児童19人（小学生低学年9名、小学生高学年9名、中学生1名）
（フリースクール） 161日開校 年間利用のべ1,406人
（放課後学習支援） 年間利用のべ203人

	行事日（日）
4月	入学式（8）、もりくらす（12）、アートセラピー（17）、スマイルクラス（19）、うみにわコラボ：たねもり観察会（26）
5月	あきさわ園：玉ねぎ収穫（8）、スマイルスポーツ（10,31）、遠足：鎌倉散策（17）、もりくらす（22）、防災講座（24）、きらくなしごと：鎌倉現場で竹小舞（27）

6 月	アートセラピー(3)、潮干狩り：野島公園(7)、もりくらす：流しそうめん(14)、あきさわ園：梅もぎ(17)、梅しごと(18) スマイルクラス(21)、ボードゲーム大会(28)
7 月	うみにわコラボ：葉山公園磯観察(5)、スマイルクラス(12)、高学年キャンプ：柳島(29～31)
8 月	夏まつり(23)、水鉄砲づくり(26)、オープンフリースクール(27)、映画上映会「屋根裏のラジャー」(28)、逗子プール(30)
9 月	アートセラピー(9)、スマイルスポーツ(13, 27)、
10 月	もりくらす(4)、スマイルクラス(7, 18, 25)、たこ焼きパーティー(11)、映画上映会「借りぐらしのアリエッティ」(28)、演劇練習(随時)
11 月	スマイルクラス(1, 22)、感謝祭(3)、きらくなしごと：(6)、逗子フリースクール等連絡協議会合同運動祭(8)、いのちのおはなし(15)、もりくらす(29)、演劇練習(随時)
12 月	アートセラピー(4)、スマイルクラス(6)、きらくなしごと：あきさわ園で竹林整備とみかんの収穫(11)、演劇練習(随時)、クリスマス会、演劇発表(20)、ケーキづくり(23)、大掃除(25)
1 月	スマイルクラス(10)、ラオスのおはなし(17)、鎌倉のフリースクールラルゴとのコラボ：合同スポーツタイム(24)、みそづくり(31)
2 月	スマイルクラス(7, 14, 28)、もりくらす(10)、団子づくり(12)、アートセラピー(19)、遠足：藤沢少年の森アスレチック(21)
3 月	スマイルクラス(7, 14)、カレー作り(12)、卒業&修了パーティー(24)

・事業の成果

今年度の新規入会は5名、退会は2名、卒業生は1名でした。

フリースクールは事業計画時、週3日開催の計画でしたが、メンバーの利用回数が増加したため、6月から火曜日も開催することになりました。開催日の一日の定員を10人として、実際には曜日により参加人数のばらつきはありますが、平均すると利用率は87.3%となりました。

登録児童19名のうち中学生は1名で、その子も学校併用で参加日は少なく、放課後の個別支援のみに参加している高学年や、学校再チャレンジの高学年メンバーもいたため、一年を通じて小学生が中心の利用となり、特に低学年が増加傾向にありました。

一日10名を超える日もあり、人員体制を強化するため、ボランティアの活用を増やし、11月から児童支援スタッフも1名増やしました。

逗子市の体験学習施設スマイルの利用については、継続して年間予約を行ない、利用人数の多い金曜日は、スマイル集合解散の一日利用をしました。

外拠点のたねもりの利用も定期的に行ない、「もりくらす」として一日もりで過ごし、ロケットストーブを利用したごはんづくりや、土中環境整備も行ない、遊具や設備も充実し、自然の中で過ごす心地よさを体感できる場に育っていきました。

行事については、子どもたちのやりたいことへのサポートを重視し、企画から実施までの経験を積めるように、みんなで話し合いながら役割分担等を決めて、進めてきました。小集団だからこそ体験できる活動も大切にしながら、一つひとつのプログラムを楽しみ、その経験の中で学び育つ子どもたちの様子も感じられました。

放課後学習については、主に3名の児童の継続的な利用に対応するため、地域の元教員のボランティアを2名お迎えし、より個別的な支援を行ないました。また、まだ集団に入れない児童について、個別支援の対応を継続してきました。

② 学校以外の多様な学びの場を求める子どもとその家族のための相談支援事業

◇相談支援事業（県立青少年センター委託「不登校相談事業」、「想暖室」事業）

- ・内 容 学校以外の多様な学びについて、子どもの生活や進路、ご家族の悩み等について相談を受けたり、フリースクールの見学や体験等の支援を行ないました。
- ・日 時 相談：月・水・金の 14:00～18:00（145 日開催）
体験：月・水・金の 10:00～13:00
- ・場 所 逗子市の拠点、またはオンライン等（メール、ライン等）
- ・従事者人員 スタッフ 2 人
- ・受益対象者 学校以外の多様な学びを求める子ども、家族および学校関係者
- ・活動実績 利用のべ 263 人（相談 229 人、見学 18 人、体験 16 人）
- ・事業の成果

今年度は、青少年センター委託の不登校相談事業を実施し、週に 3 日の人員を配置し、メールやラインでの相談にも対応をしましたが、例年のように夏休み明け以降の新規相談が急増することはありませんでした。費用対効果を考え、次年度については、青少年センターの委託を受けずに、相談の日時をしばり、相談の増減に対応できる形で対応する必要性を感じました。

③ 学校以外の多様な学びの場を求める子どもとその家族と市民の交流と社会教育の推進を図るための事業

◇社会教育推進事業

- ・内 容 自然や心と身体の健康等についての講座を開催をしました。
- ・活動実績
 - ①土中環境再生講座、環境整備活動（4/14, 5/5, 6/4, 6/30, 11/3, 11/24, 12/22, 2/23 開催、参加 145 人）
 - ②防災講座（5/24。参加 14 人）
 - ③いのちのおはなし（11/15。参加 20 人）
 - ④ラオスのおはなし（1/17。参加 14 人）
 - ⑤ここだねセミナー「パパたちによる優しい未来づくりのおはなし～今の学校に合わない子どもの理解と多様な学びのありかた～」（1/25。参加 22 人）

・事業の成果

フリースクールの子どもたちと保護者を対象にした内部の講座と、オープンにした形の講座の両方を実施しました。「土中環境再生講座」は、外拠点たねもりの環境整備を「たねもりかい」のメンバーと楽しみながら行ないました。子どもたちも心地よく過ごせる場づくりと自然と親しむ畑づくりを行ない、畑で取れる収穫物も子どもたちと楽しむことができました。

「防災講座」も開催し、その流れで保護者とスタッフが協力して「防災マニュアル」の作成にもつながりました。

「ここだねセミナー」は、日ごろは中々子育てや集いに参加されないお父さんたちをターゲットとして企画開催しました。深沢武と佐野宏行さん（まなび一主宰、フラスコ理事・スタッフ）のダブル講師が先輩パパとしての経験を話し、参加された保護者の方々とも意見交換しながら、多様な学びの理解と今後の子育てに活かせるヒントを気づき合う良い機会となりました。

3. 補助・助成等の状況

①補助金等

- ・令和6年度子どもの居場所づくり推進委託事業（神奈川県教育委員会。コロナ禍の影響等による子どものストレスや不安感の長期化に対応し、県教育委員会の不登校対策の充実を図るため、不登校やひきこもりの子どもの自立に取り組み、柔軟な学びのノウハウを持つフリースクール等に安心安全な居場所づくり等の事業を委託。364,000円）
- ・令和6年度ひきこもり等支援団体支援事業支援金（神奈川県子どもみらい部青少年課。原油価格・物価高騰等により、ひきこもりや不登校等で悩む方やその家族への支援活動の継続を援助するための支援金。20,000円）
- ・令和6年度神奈川県フリースペース等相談事業費補助金（神奈川県立青少年センター。フリースペース等の活動に併せて相談活動を実施する民間団体への補助。600,000円。）

②助成金等

- ・逗子市空き家活用支援助成（パブリックサービス。空き家を活用し、まちの活性化と地域活動の支援を行なう事業者等への助成金。100,000円）

③後援、協力、共催等

- ・逗子市の協力により、「体験学習施設スマイル」の公的利用が可能となっています。

4. 関係機関との連携

①フリースクール全国ネットワーク（会員）

フリースクール全国ネットワークでは、フリースクールにおいて子どもが安心安全な環境の中で学び育つことができ、子どもも大人も安心して関係を築くことができるように「フリースクールガイドライン」を策定し、フリースクールに関わる全ての人の権利擁護を目標としています。当法人はそのガイドラインを遵守し、ホームページに掲載し、フリースクールを利用する方々や、ボランティアに説明し、スタッフ研修にも活用しました。2024年度は、ここだねの深沢武が人権研修委員として参加し、人権研修の企画運営も行ないました。

②神奈川県学校・フリースクール等連携協議会（加盟）

公的機関との連携として、神奈川県学校・フリースクール等連携協議会による不登校相談会の個別相談会（今年度は、9/7 横浜会場と 10/5 横須賀会場に出席）で相談の場を開き、より多くの方々にフリースクールとつながる機会を提供することができました。また、11月に教育関係者向けの見学会も開催し、ここだねを知っていただく機会を増やすことができました。

③逗子フリースクール等連絡協議会（加盟）

2024年4月に市内の「フリースクールcas!ca(カシカ)」と共に発足し、その後、「Terako-ya 寺子屋フリースクール」「あそびやさん」「逗子オルタナティブスクール FRASCO(フラスコ)」が加盟し、現在5団体の協議会となり、ここだねの深沢武が代表を務めています。

フリースクールや保護者への補助についての要望書を逗子市長に提出するために連絡協議会を発足し、協議を進めてきました。残念ながら次年度からの補助は決まりませんが、フリースクールの所轄が決まり、市との協働でオープンフリースクールを開催したり、情報交換と交流の場を設けることができたり、関係機関とのつながりを深めることができました。読売新聞やタウンニュースの紙面にも協議会の発足と活動が掲載され、反響がありました。

④自治会

拠点のある桜山番合谷戸自治会に継続加入し、文化祭に出展するなど、地域の方々との交流を深めました。